

# 自家発は760名、可搬形は468名

## 専門技術者講習・試験の合格者を決定

内発協はこのほど、11月27日に開催された自家用発電設備専門技術者審査委員会での審査結果に基づき、「令和2年度専門技術者講習・試験」の合格者を決定しました。新規合格者は、自家用発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）が受験者887名のうち760名。一方、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形専門技術者）は受験者494名のうち468名。合格者の合計は1,228名となりました。

受験者数及び合格者数の増減を前年度実績と比較すると、自家発専門技術者については受験者数が20%減少し、合格者数も24%の減。可搬形専門技術者については受験者数が36%減少し、合格者数も38%の大幅減となりました。

新規合格者と併せて、科目別合格者、業務区分追加合格者も決定しました。今後のスケジュールについては12月20日以降、受験者全員に合否結果通知書を発送し、合格者に対し資格証を交付する予定です。

### 新規合格者の業務区分

自家発専門技術者の新規合格者が取得した「業務区分」の組み合わせをみると、装置部門（S）・据付工事部門（K）・保全部門（M）の全三部門のうち、「M」の一部門のみを取得した者が304名（シェア40%。以下同様）と最も多くを占めました。

次いで「K・M」の二部門を取得した者が260名（34%）。続いて「S・K・M」の三部門を取得した者が127名（16%）の順。前年度と順位は変動がなく、合格者数に占める割合については「M」のみが前年度比2%減、「K・M」が1%増、「S・K・M」が1%減でした。（20ページの図1参照）

一方、可搬形専門技術者については据付工事部門（K）と保全部門（M）の業務区分となります。

### 新規合格者の業種別

新規合格者数の内訳を「業種別」にみると、自家

発専門技術者については「保守・修理業」の272名（36%）、「電気工事業」の219名（29%）、「製造業」の101名（13%）の順。前年度と順位は変動がなく、割合については「保守・修理業」は前年度より3%増、「据付工事業」は4%増、「製造業」は1%減でした。（20ページの図2参照）

一方、可搬形専門技術者については「土木工事業」の230名（49%）が圧倒的に多く、「建築工事業」の65名（14%）、「その他」の53名（12%）と続きました。「賃貸（リース・レンタル）業」は前年度比8名減少しましたが、割合については2%増となりました。（20ページの図3参照）

### 新規合格者の年代別

新規合格者数を「年代別」にみると、自家発専門技術者では前年度に引き続き、30代の256名（34%）、40代の234名（31%）、20代の152名（20%）の順でした。30代の割合が1%増加し、40代の割合は変わらず、20代の割合は2%減、50代以上の割合は2%増でした。合格者の平均年齢は39.4歳でした（前年度は38.6歳）。（21ページの図4参照）

一方、可搬形専門技術者については、40代の187名（40%）、50代以上の123名（26%）、30代の101名（22%）の順。割合は40代が1%増、50代以上が3%増、30代が2%減、50代以上と30代の順位が入れ替わりました。合格者の平均年齢は42.7歳（前年度は42.1歳）でした。（21ページの図5参照）

なお、自家用・可搬形の全体で最年少の合格者は21歳、最年長は76歳でした。

### 新規合格者の地区別

新規合格者数を受験会場ごとに集計した「地区別」をみると、自家発専門技術者については東京地区の237名（31%）、大阪地区の124名（16%）、福岡地区の89名（12%）でした。前年度は福岡地区と名古屋

地区が同数でしたが、名古屋地区は順位を二つ下げました。(21ページの図6参照)

一方、可搬形専門技術者についても合格者数は東京地区の114名(24%)が最も多く、次いで名古屋地区の94名(20%)、大阪地区の69名(15%)の順でした。順位については変わらず、割合についても大差ありませんでした。(21ページの図7参照)

## 科目別合格者、業務区分追加合格者

新規講習・試験と併せて開催された「科目別受験」については52名が合格しました。「科目別合格者」

とは受験科目の一部が合格点に達しなかったため、その年度に合格できなかった者が次年度に合格点に達しなかった科目を受験し、合格した者です。合格者が取得した業務区分の組み合わせをみると「K・M」の二部門が23名(44%)と最も多くを占めました。(21ページの図8参照)

「業務区分追加受験」については45名が合格しました。「業務区分追加合格者」とは専門技術者資格保有者が新たな業務区分を追加する目的で受験し、合格した者です。追加取得した業務区分をみると、「K」の一部門のみを取得した者が26名(58%)と最も多くを占めました。(21ページの図9参照)

業務区分の組み合わせは7通り。

1. 装置部門 (S)・据付工事部門 (K)・保全部門 (M)
2. 装置部門 (S)・据付工事部門 (K)
3. 装置部門 (S)・保全部門 (M)
4. 据付工事部門 (K)・保全部門 (M)
5. 装置部門 (S)
6. 据付工事部門 (K)
7. 保全部門 (M)

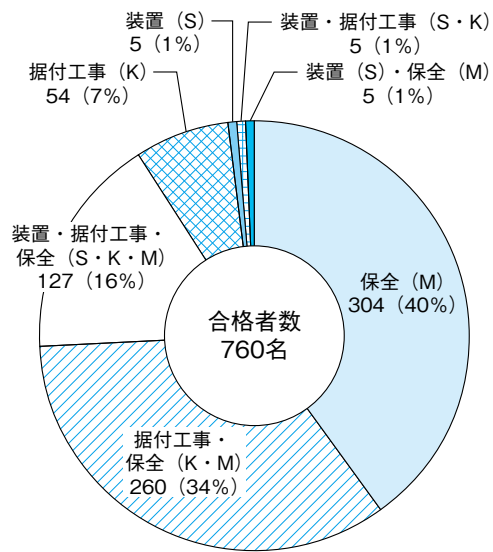


図1 自家発新規合格者が取得した業務区分の組み合わせ

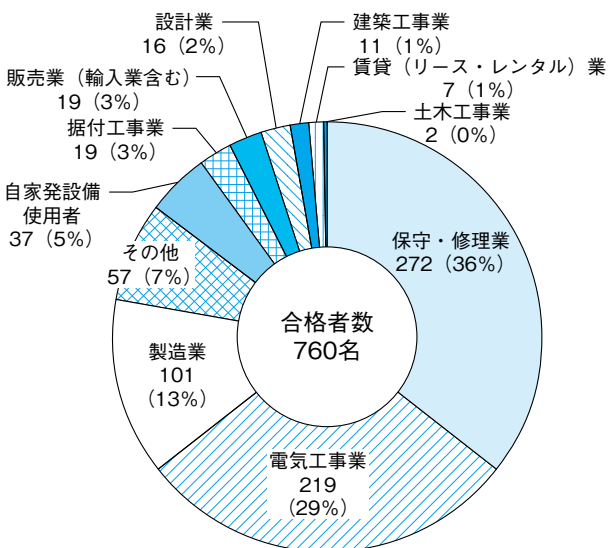


図2 業種別の自家発新規合格者数

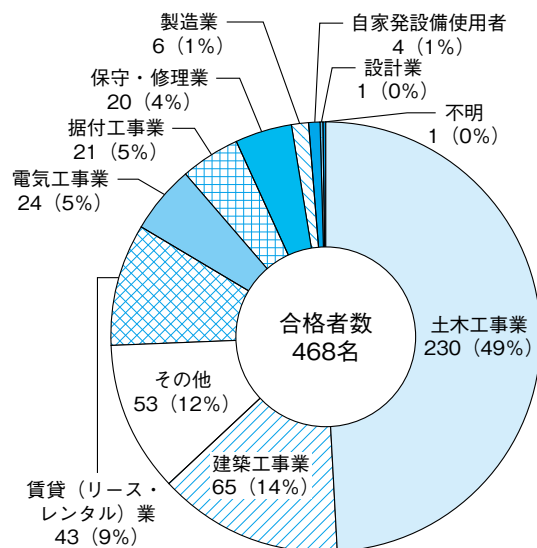


図3 業種別の可搬形新規合格者数

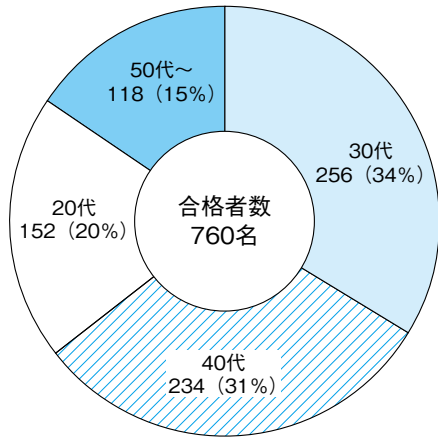


図4 年代別の自家発新規合格者数

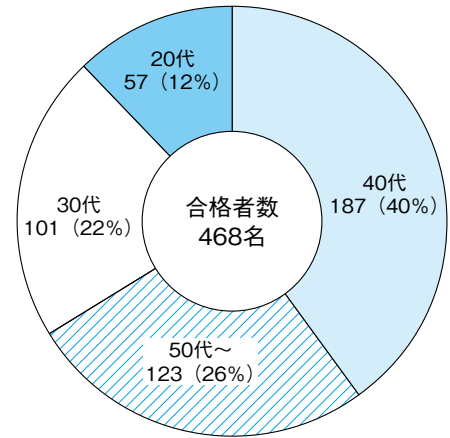


図5 年代別の可搬形新規合格者数

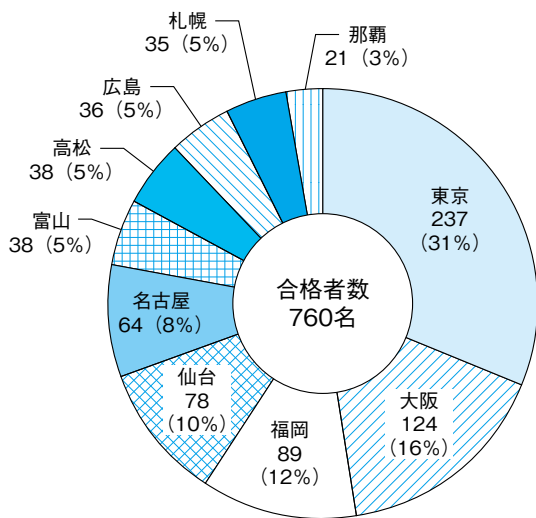


図6 地区別の自家発新規合格者数

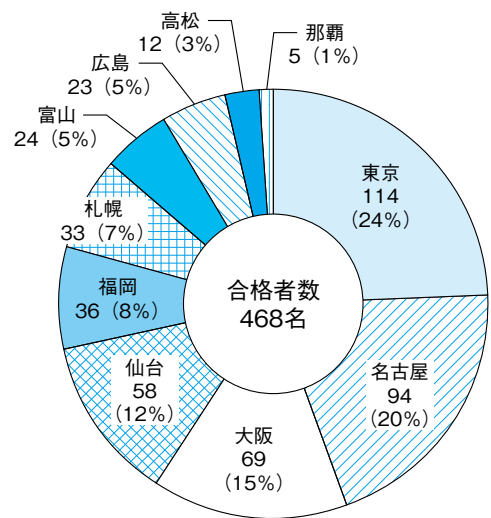


図7 地区別の可搬形新規合格者数

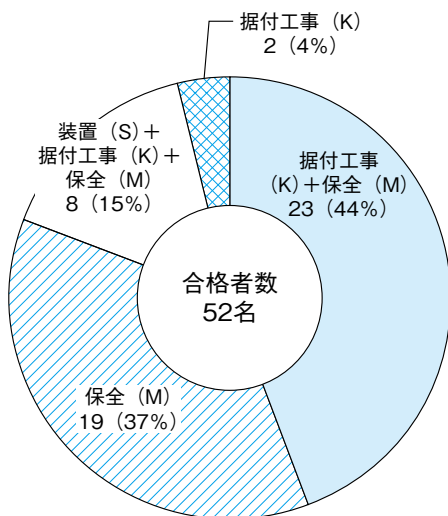


図8 科目別合格者が取得した業務区分の組み合わせ

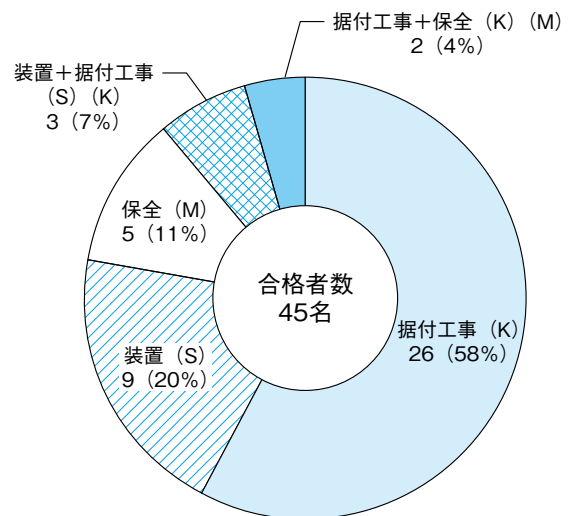


図9 業務区分追加合格者が取得した業務区分の組み合わせ